

令和6年度 学校評価(自己評価)集計

北海道芦別高等学校

※「自己評価」欄の記載は、「4: 目標を十分に上回って達成した 3: 目標を達成した 2: 目標を達成できなかった 1: 目標に向けて取り組みなかった」(4段階評価)から選択し、数字を記入ください。

学校教育目標		重点目標	スクールミッション				
○未来に生きる知性を創造する生徒		①主体的、対話的で深い学びを通じて、知識・技能及び社会で活きる力を育む ②自己理解を深め、社会の有為な担い手となる進路実現に向けて、積極的に取り組む態度を育む	(1)地域唯一の公立高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通して、地域の未来を創っていく生徒の育成				
○世界に生きる徳性を涵養する生徒		③多様性を尊重し、他者と協働することにより逞さや自尊心、創造性を養うとともに、自己指導能力を育む	(2)集団生活や特別活動等を通して、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成				
○風雪に生きる心身を練成する生徒		④心身の健康の保持増進に努めるとともに、自他の健康安全に貢献できる態度を育む ⑤地域の伝統や文化に根拠し、地域の人と触れ合うなかで、地域を理解・尊重する態度を育む	(3)多様な進路希望に対応したキャリア教育を通して、希望する進路を主体的にデザインし、進路の実現に向かうことができる生徒の育成				
領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	自己評価平均	今年度の感想、改善・充実の方策	評価
教育活動	学習指導	○主体的、対話的で深い学びと個別最適な学び、協働的な学びの充実	①ICTを活用し、生徒が互いに学び合う学習集団を形成する指導内容や指導方法の改善	①授業ごとのclassroomを適切に活用するとともに、生徒同士の協働的な学びを実践し、授業改善を図ることができた。	2.92	・より効果的な活用方法を模索し活用したい。 ・ICT研修会を継続して実施する。 ・Classroomの活用は不十分だった。理由はApple製品 (iPad・iPhone) を使用する生徒が多いため、Apple製品アプリの活用を中心に授業展開したためである。タブレットを自分の机で使用するとClassroomで配布したデータの作業が出来ない不具合がある。入学者人数が少なくなっていくので市販の交換などでできないか検討してみたい。 ・利用方法を知る機会を設ける ・ある程度は準備できていると思うが、学習へのシブシブな楽しさをより味わわせるために、教授法の工夫や教材の仕入れは必要だと考える。	B
			②適切な観点別評価の実践	②リフレクション(振り返り)を効果的に観点別評価に反映できた。	2.92	・概ね実践できており、今後も継続していく。 ・授業の時間配分が上手くいかず、リフレクションを実施できていない時があった。 ・リフレクションカードの効果的活用 ①と連動させる必要がある ・観点別評価については働き方改革に逆行するという批判も高まっており、本校の現状で充分であると考え。	B
			③多様な生徒の実態に応じた授業研修の充実(国数英は学び直しの工夫を含む)	③教科内にとどまらず、教科間、異校種、保護者、地域の方などに授業を見せてもらい、授業研修に活かすことができた。	2.92	・学び直しが学習意欲の向上に繋げることができた。 ・機会をあまり作ることができなかったため、次年度以降は積極的に観覧をしてもらい、授業力向上のために活かしていきたい。 ・異校種の授業、外出して地域の授業を見る機会を確保する。 ・第三者に授業を見せようと思った。 ・関心を持っていない生徒への対応の研究 ・前期以上に授業公開、研修会がさかんに行われ、他校(小中含む)との交流もあり、下記教員にとっての刺激になり得たと思う。	B
	キャリア指導	○自己理解の深化と社会で活躍するための資質の育成	①深い自己理解に基づく進路目標の確立に向けた支援	①生徒に自己理解を深める働きかけを行い、進路目標の設定・見直しを支援できた。	3.00	・さまざまな職種・校種の情報を得る。 ・学校の商業選択授業で法、企業経営などについて教えることが出来た。ツアーイベント、商品開発など、生徒に考えさせる授業展開を行うことで進路活動の支えにつながった。本年度は全員がビジネス科目を受講するため、より多くの人物に進路支援が可能となる。 ・より授業の内容と連動させて知得できるよう努める。 ・進路に関する取り組みがより充実しているが、一方でやる気を落とす生徒もいる。現状の取り組みで充分だが、今後とも留意する必要がある。	B
			②社会人としての資質を養うための進路情報・体験・知識の提供	②適切な進路情報等を提供し、生徒が学ぶことや働くことの意義を実感できた。	3.08	・自らも研修を深め、社会が求めているものにはなにかを知る。 ・2年生の授業で各種検定取得を推奨して働くために必要な知識を提供できた。来年度以降も継続して行っていく。 ・取り組む生徒は増えたものの、なお取り組み方がしっかりしていない点もあるので、今後の改善が必要である。	B
			③探究活動等を中心とした進路実現への積極的な支援	③生徒が積極的に進路実現に向けて取り組めた。	3.15	・担任として生徒の進路実現に積極的に関わった。 ・ゴールの見えにくい2年生探求活動である。芦別市との連携を外して計画するか、高校主導で資金や企業の協力のみお願いするのが良いのではないかと感じる。また、3年間計画で探求活動のガイドラインを作ったはずだが、内容の引き継ぎがなされていない事を改善する必要がある ・説明会で個別に相談にのる ・現状のままでよいと考える。	B
	生徒指導	○自己指導能力の獲得に向けた自己有用感の向上と道徳心・自尊心・創造性の育成	①生徒の特性に応じた適切な支援とコーチング・スキルの向上	①生徒の自己肯定感を高め、自身の気付きによる向上心を育むことができた。	2.85	・多様な特性を持つ生徒に私自身がしっかり向き合えていたか疑問である。こちらの話を聞いたあと、生徒が継続して行動する場面が少ないように感じた。今後も自己研鑽で効果的なスキルを身につける ・このことを日常的に意識する ・指導は多いものの、取り組み方はしっかりしていると考え、教員にとっての過度な負担とならぬ配慮も必要だろう。	B
			②自立する成年に向けた自己管理能力と規範意識を育む行動支援	②生徒の状況を的確に把握・共有し、自立する成年に向けた行動支援ができた。	2.77	・生徒への接し方・自分自身の行動規範も、もっと意識し、さらに改善していきたい。 ・成績不振者や特別指導対象生徒が主になるが、規範意識を育む支援ができた。来年度も継続して行っていく。 ・言動が周りにどう捉えられるかを伝える ・「18歳成人」の意識付けはよくできていると思う	B
			③命の大切さや多様性を尊重する指導を行い、いじめやトラブルを見逃すことなく、組織的に対応できた。	③命の大切さや多様性を尊重する指導を行い、いじめやトラブルを見逃すことなく、組織的に対応できた。	3.00	・生徒の多様な変化を把握し、話し合いの場を設けて対応できた。 ・前年度に比べていじめ・いじめ被害の発生状況に気づくことができたようだった。 ・SNSの使い方を繰り返し指導する。 ・教職員間の連携を密にする。 ・いじめアンケート特別委員会を早期発見、未然防止の対応している。しかし、突発的に発生したトラブルに対して組織的に対応し、早期解決することが出来なかった。全員が即時対応、報告、解決できる組織作りを行っていく。 ・生徒の観察から兆候を見逃さず対応していく。 ・結果的にいじめ被害は発生しなかったが、いじめ被害の発生を未然に防ぐための指導ができていないように感じる。	B
			④特別活動による達成感の獲得や自己有用感の向上と、地域の活動への自主的な参加の推奨	④各行事、生徒会活動等の目的、資質・能力評価標準を生徒に提示し、振り返ることで達成感や自己有用感を持たせ、地域の活動への自主的な参加を推奨できた。	2.69	・生徒指導等としては学校祭、体育大会で地域住民との関わりを持つことが出来た。ボランティア活動や花いっぱい運動が充分機能していないように感じている ・具体的な改善方法とともに考える機会を作る ・地域を認識した取り組みは、これからいっそう必要になると考える。現状でも程度できているが、今後さらに期待したい。	B
	健康・安全指導	○心身の健康の保持増進と、自他の健康安全に貢献できる態度の育成	①生徒の健康管理意識の向上と、SCと連携した教育相談の実践	①自身による健康管理の大切さを生徒に伝え、SCの活用など安心して相談できる環境を提供できた。	2.92	・SCによる全員面談など、これまでの取り組みを見直して改善実施した ・声掛けの機会を増やす ・SCの増員が必要であると考える	B
			②清掃活動や環境整備の取組による学校生活・学習環境の美化と地域の環境保全意識の高揚	②教室等の校舎、及び通学路等の美化に努める態度が育成された。	2.62	・以前より教室がきれいになった。 ・校舎を大切に使う意識を高める指導を継続する。 ・清掃活動を丁寧に行う。 ・設置環境の悪化が外部から指摘されたため、技術使用の劣悪さが目立った。校舎周辺のゴミ拾い活動を再設定したい ・監視カメラでしっかりと監視を付けるよう指導する ・美化は他人任せにしがちな生徒も多い。今後育成をはかりたい。	B
③校外の講師等を積極的に活用した薬物乱用防止やネットトラブル防止、交通安全等の指導			③ 外部講師を積極的に活用し、生徒が安全意識を高めることができた。	3.00	・次年度からも外部講師による講話あり ・積極的な活用よりも、必要に応じた適切な活用となるよう吟味する必要がある。	B	
学	組織運営	○スクールミッション、重点目標、育成を目指す資質能力を意識した教育実践	①「チーム学校」として課題の共有と解決に向けた協働	①質の高い報・連・相に努め、主体的に組織力向上に貢献できた。	2.85	・一人で抱え込まず情報を共有し業務に当たることができた ・自分自身まだまだ足りない部分があるので、密に取っていききたい。 ・継続して、即時情報共有・早期対応に向けた組織作りを行う ・より連携を深める ・明確に示すことで、効率的な仕事の進め方を具現化させたい。	B
			②各教育活動の目的、資質・能力の評価標準の明確化	②各教育活動において評価標準に基づく評価を行い、改善につなげることができた。	2.92	・ループリックを効果的に活用した。 ・不十分だったと感じている。来年度は評価改善基準を明確にして活動したい ・評価標準を適切なものにする ・分掌・委員会は充分すぎるほど活動し、課題解決をはかっている。	B
			③ミドルリーダーを中心とした組織的な業務の遂行	③部長主任等のミドルリーダーを中心に、組織的に業務を遂行できた。	3.00	・部長間の連携は取れている。来年度からも連携して業務をしていく ・より連携を深める ・中堅層の教職員がしっかりしているため、学校が動いていると感じられる	B
校運	信頼される学校づくり	○学校と地域が一体となった教育活動の推進	①学校運営協議会をはじめとする地域の関係機関との連携を深め、魅力ある学校づくりの推進	①保護者や地域、小中学校等連携した教育活動を進めることができた。	3.15	・担任という立場上保護者との連携を図り業務を行うことができた。 ・次年度以降、連携していく機会を作りたい。 ・授業参観や意見交換の機会が増えたと感じている。来年度も継続していきたい ・参加する機会を設ける ・充分進んでいると考える。この連携を継続させたい。	B
			②本校の取組の積極的な情報発信	②「すべての教職員が情報発信者である」との認識のもと、HP更新をはじめ様々な機会を用いた情報発信ができた。	3.00	・概ね責任を果たせたと思う。 ・発信する機会が自立的で、行事終了後すぐに発信したいと思う。 ・来年度も継続していく ・積極的に発信する ・現状のままでよいと考える。	B
教職員の資質向上	○教育公務員としての自覚と働き方改革の推進	①教育公務員としての服務規律の遵守	①服務規律を遵守する行動がとられた。	3.77	・業務の基本として捉えて遂行した。 ・概ね遵守できている。信用の向上に向けて努めていきたい。 ・継続していく ・全体としてはよく遵守できていると思う	A	
			②業務の効率化による在校時間の縮減と、心身の健康保持増進及びライフワークバランスの実現	②自己の勤務時間を意識するとともに、教育に対する情熱、やりがいを見失うことなく時間外勤務の縮減に取り組んだ。	2.85	・繁忙期は困難な時期もあったが、定時退勤を心がけた。 ・縮減できる仕事量ではない ・勤務時間内の作業効率向上を目標に次年度以降も働いていきたい。 ・情熱、やりがいを持って業務につく ・取り組んだものの実現できているとは言い難い。	B

※評価平均は評価項目ごとの平均値を算出(小数点第3位四捨五入)。 評価は評価平均について、A 3.25以上 B 2.50~3.24 C 1.75~2.49